

## 丁寧な描写で細かくニュアンスを伝えるアルミドーム シルクドームは密度が高まり濃い音色が味わえる

ダイヤモンドオーディオ HEX H600a/s  
¥110,250 (税込)

### スピーカーシステム

- 形式：セパレート型2ウェイスピーカーシステム
  - 使用ユニット：ウーファー・16.5cmコーン型、トゥイーター・ドーム型
  - 再生周波数帯域：42Hz～24kHz
  - 定格入力：150W
  - 最大入力：300W
  - 出力音圧レベル：91dB
  - ブランド国籍：アメリカ
- [問合せ先] オーディオジャパン  
TEL.0299-90-5506



アメリカのブランド、DIAMONDの上級シリーズのスピーカーシステムがHEXだ。3種類がラインナップされている。振動板の手前側に磁気回路を持ってきて、取りつけの埋め込み寸法を浅くしたタイプのHEX S650。そしてコンベンショナルな造りで、サイズ違いの2種類がHEX H600とH500。この中から16.5cmの振動板を持つ2ウェイのコンポーネント、HEX H600を紹介しよう。

スピーカーユニットは最終的に音を出してみないと評価出来ないが、期待を高める造りをしているスピーカーだ。磁気回路のマグネットは大型で、制振対策のためかブチルラバーを巻いている。バスケットのフレームは骨太で、表側から見えるフレーム部もけっこう厚みを持っている。振動板はHEXコーンテクノロジーが使われており、黒い表面から六角の形をしたハニカム

構造が透けて見える。トゥイーターは磁性流体で冷却するタイプのシステムで、磁石自体はネオジウム。パッシブネットワークはモデルごとにチューニングされているという。トゥイーターは、シルクドームとアルミドームの2種類が選択できる。

まず、アルミドームから聴いた。低音のレンジが広く、音の重心自体も低めに感じられる。具体的には40Hzあたりまでの音圧感を持っている。基本はアキュレートな音調だが、アルミの振動板というメタリック素材のイメージが一切なく、ある種の味

わいとか、やや暗めで重めの高音を感じさせるトーンだ。エネルギー感が高めながら、たとえばクラブトンのボカルの描写など、ていねいでニュアンスを細かく表現してくれるのが魅力的だ。

シルクドームでは、より濃い音色感のあるやや個人的な表現だ。音像は大きめになり、空間表現力よりも、音像重視の聴こえ方になる。声は若やぐ傾向だが、高音の刺激感は減少する。音の密度が高く、ある種のバイタリティを感じさせるところに魅力を感じた。(鈴木 裕)



HEXコーンテクノロジーと名付けられた、ハニカム構造のウーファー振動板。縁からそのハニカムコアを確認ができる。フレームはアルミダイキャスト製で、重量級のマグネットが組み合わされる。



トゥイーターは、振動板素材違いでa:アルミとs:シルクの2モデルが用意される。マグネットはネオジウムで、磁性流体タイプの冷却システムを持つ。

使用システム ヘッドユニット：カロツェリアRS-D7XIII/デジタルプリアンプ：カロツェリアRS-P99X/パワーアンプ：カロツェリアPRS-A900